

個人投資家向け 企業IRセミナー

2026年2月13日



三菱製鋼株式会社

東証プライム:5632

目次

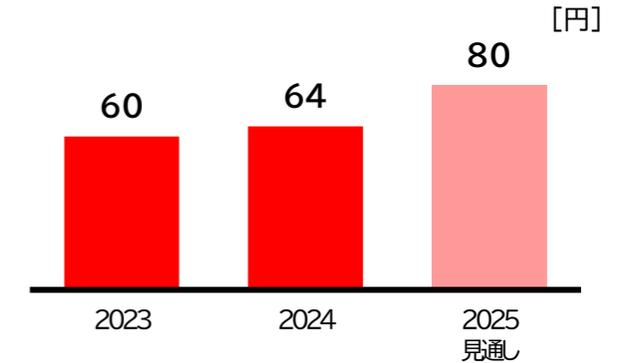
I. 会社概要	P. 2
II. 当社の事業	P. 8
III. 2030年に向けた成長ストーリー	P.16
IV. ご参考資料	P.35

I. 会社概要

会社概要

会社名	三菱製鋼株式会社
本社所在地	東京都中央区月島四丁目16番13号(Daiwa月島ビル)
創業	1917年(大正6年)4月
設立	1949年(昭和24年)12月
資本金	100億3百万円(2025年3月末現在)
代表者	代表取締役社長執行役員 山口 淳
決算期	3月
連結売上高	1,596億円(連結)(2025年3月期)
グループ会社数	連結子会社数:17社(国内:6社、海外11社)
従業員数	3,841人(連結) 681人(単独)(2025年3月末現在)

株主還元の推移



還元方針

(対象は2025年度)

配当性向

40%

配当下限

80円/株

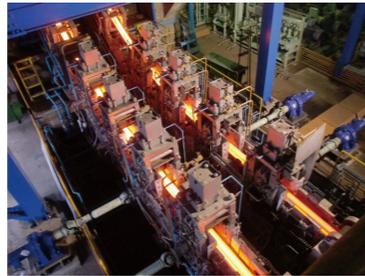
さらに、総還元性向50%以上を目指す

経営理念

1. お客様第一
2. 新技術の開発
3. 人を活かす経営
4. 未来への挑戦
5. 社会への貢献

三菱製鋼とは？

「素材」となる**特殊鋼**から 「製品」の**ばね**までを一貫生産



素材となる特殊鋼を生産



ばね製品に加工

長年培った技術を活かして、**成長分野に事業拡大**

新興国需要



海外鋼材

多様化するニーズに応える



高機能ヒンジ



特殊合金粉末

政府が掲げる戦略分野



エネルギー分野
(洋上風力等)



安全保障分野

三菱製鋼の4つの事業

特殊鋼鋼材事業

47.7%

建設機械に使われる特殊鋼



スプロケット



アイドラー



旋回輪

産業機械・工作機械に使われる特殊鋼



工作機械用リニアガイド



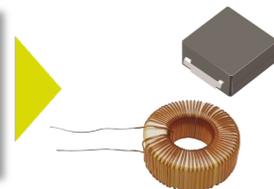
工作機械用ボールネジ

素形材事業

5.4%



特殊合金粉末



(製品適用例)
電子制御部品の
インダクタ



精密铸造品
(ターボチャージャー用
タービンホイール・ペーン等)



2025年3月期
連結売上高
1,596億円

ばね事業

38.7%

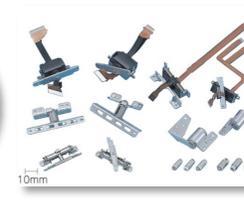
自動車の乗り心地を支えるサスペンションばね



鉄道車両用ばね



電子機器等に使用される精密ばね部品



機器装置事業

6.1%

エネルギー関連



大型鍛圧機械



洋上風力関連部品

安全保障関連



防護装備品

環境関連



金属分別用
リサイクル設備
(磁力選別機)



ガスタービン用
圧縮・燃焼シリンダー

その他の事業 2.1%
(流通・サービス業等)

国内・海外ネットワーク

国内拠点



三菱製鋼室蘭特殊鋼
(北海道室蘭市)



千葉製作所
(千葉県市原市)



広田製作所
(福島県会津若松市)



三菱長崎機工
(長崎県長崎市)

特殊鋼鋼材

ばね

素形材

機器装置

海外拠点



MSM (THAILAND)
(タイ)



寧波菱鋼彈簧
(中国)



MSSC CANADA
(カナダ)



MSSC US
(アメリカ)



MSM SPRING INDIA
(インド)



(セブ工場)



MSSC MEXICANA
(メキシコ)



JATIM TAMAN STEEL
(インドネシア)

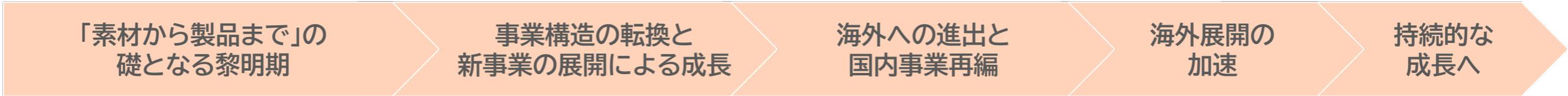


MSM Philippines
(フィリピン)※精密ばね



(マニラ工場)

当社グループの軌跡



創業当時の
コイリングマシン

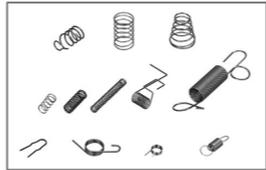
当社のルーツ①
1904年
国内最古の
ばねメーカー
東京スプリング
製作所創業

1916年
特殊鋼の生産をスタート

当社のルーツ②
1919年
三菱造船(株)
長崎製鋼所として
鑄鍛鋼品の製造を
開始

1942
両社合併し
三菱製鋼誕生
1949
二社に分離
(企業再建整備法)
1964
再び合併し、
現在の三菱製鋼に

1960年代
精密ばね事業に進出



1975年
三菱長崎機工(株)設立



1981年
特殊合金粉末の製造開始

海外展開
日系自動車メーカー等、お客様の事業展開に合わせて、海外展開を加速

1986 カナダ	1991 アメリカ	
2006 中国	2014 インド	2016 メキシコ
1994 タイ (素形材)	1995 フィリピン (精密ばね)	2014 インドネシア (特殊鋼鋼材)

国内事業の再編
長らく操業していた東京・東雲地域再開発の流れを機に
工場移転で生産能力増強に向けた工場拡張

1993 ばね事業を千葉に移管
1994 特殊鋼鋼材事業を室蘭に移管



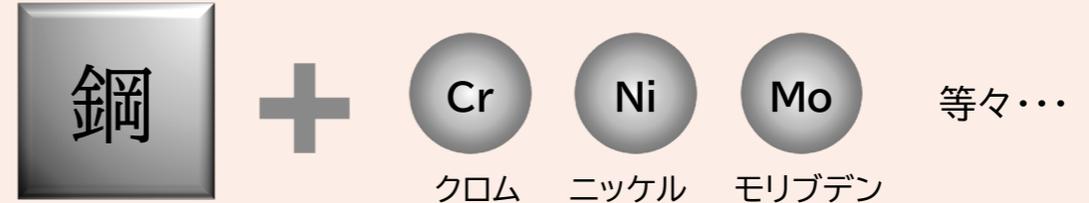
(旧)東京製作所

Ⅱ. 当社の事業

特殊鋼鋼材事業
47.7%

特殊鋼とは？

さまざまな**特殊**な性質を持つ**鋼**



用途に応じてさまざまな合金元素を付加して、必要な特性を出す

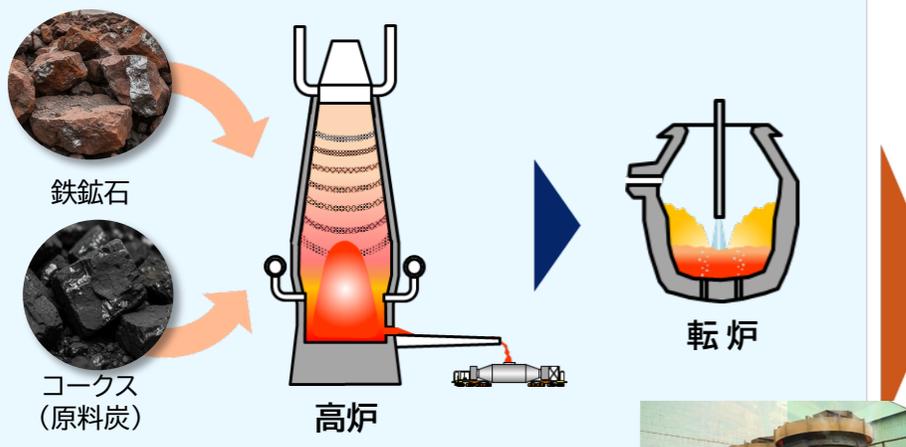
さまざまな特性とは？

代表的な特性の例	高耐久	弾力性	錆びにくい	熱に強い
主な用途	過酷な場面で使われる 建設機械の部品等	衝撃や振動を 吸収する 自動車のばね等	海水に晒される 洋上風力発電の 部品等	高温環境下で 使用される エンジン部品等
	<p>スプロケット アイドラー 旋回輪</p>			

特殊鋼の生産プロセス

当社の国内拠点(室蘭)では、競合の特殊鋼専門メーカーと異なり、**高炉製法**で特殊鋼を生産。

室蘭コンビナート内で日本製鉄(株)様と協業



鉄鉱石
コークス (原料炭)

高炉

転炉

溶鋼輸送台車

- ✓ 高炉に鉄鉱石・コークスを投入し特殊鋼の原材料となる溶銑を生産。
- ✓ 転炉で不純物を除去し鋼に精錬。

海外は電炉製法で生産



鉄スクラップ

電気炉

インドネシアにある当社の海外拠点 PT. JATIM TAMAN STEEL.MFG. では、スクラップを原材料とする**電炉製法**で特殊鋼を生産。

三菱製鋼室蘭特殊鋼(株)

製鋼工程

- ✓ 合金添加による成分調整や温度コントロールで様々な鋼種を生産。



炉外精錬装置

- ✓ 連続 casting 設備で、溶鋼を1本約9トンの鑄片に固めていく。



連続 casting 設備

圧延工程

- ✓ 2,500tプレス機で強力な圧力を加え、鋼の強度や均一性を向上。



2,500tプレス

- ✓ 全連続V-H圧延機で、用途に合わせて幅広いサイズに延ばして成形。



全連続V-H圧延機

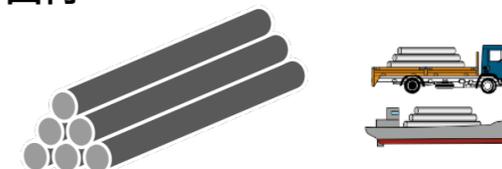
精製工程

- ✓ 鋼材の矯正・表面の面取り等の仕上げを行う。
- ✓ 自動探傷機等を用いて最終的な品質チェックを行う。



自動探傷機

出荷



特殊鋼鋼材事業
47.7%

特殊鋼鋼材事業

生産拠点

国内：三菱製鋼室蘭特殊鋼(株) (北海道室蘭市)

海外：PT. JATIM TAMAN STEEL MFG. (インドネシア)

主な向け先

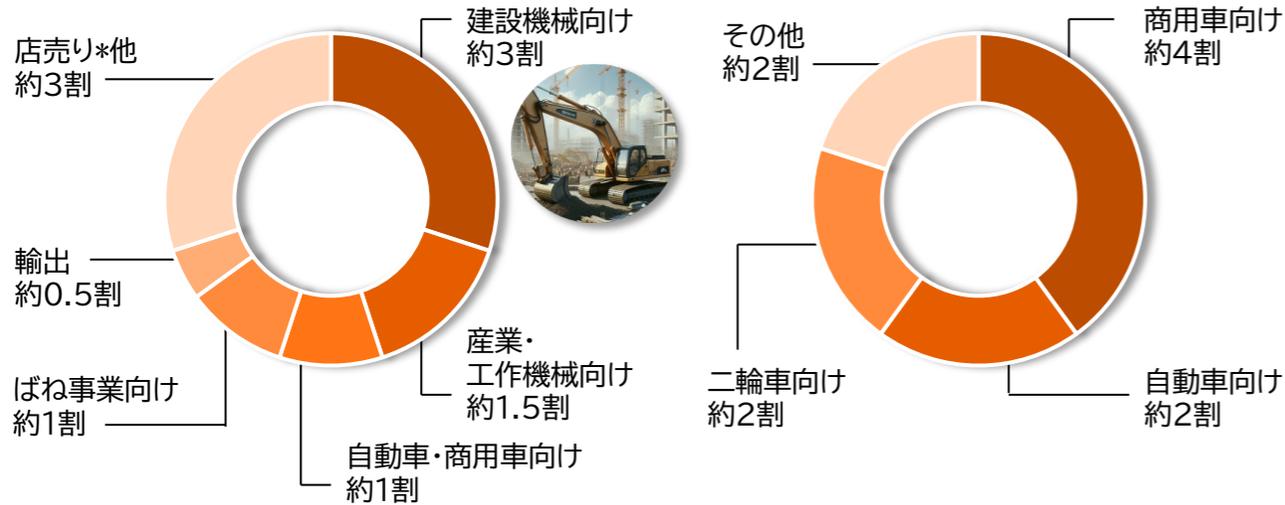
国内事業 約8.5割

海外事業 約1.5割

国内事業

戦略事業

海外事業



*店売り：鋼材を取り扱う商社・問屋等

国内事業のポイント

高炉由来の原材料から生産

- 電炉の材料となるスクラップに比べ不純物が少なく、**高品質な鋼材**を生産しやすい。

太径鋼種に強み

- 直径19mm~350mmまで幅広い鋼種に対応可で、特に太い径の鋼材は、**国内シェアNo.1**

新分野への拡販

- 中長期的な国内市場の縮小を見据え、北米オイル&ガス向けや環境関連をはじめとする**成長分野の鋼種開発**も推進中。

海外事業のポイント (詳細P.22)

戦略事業として事業拡大

- **東南アジア唯一の製鋼一貫特殊鋼メーカー**として、今後市場の成長が見込める東南アジアの旺盛な需要増に応えるべく、能力増強投資等を実行。

電炉を活用した環境対応

- 2025年10月より、使用電力の100%を再生可能エネルギー由来に切り替えており、**グリーンスチールの供給**に向けて大きく前進

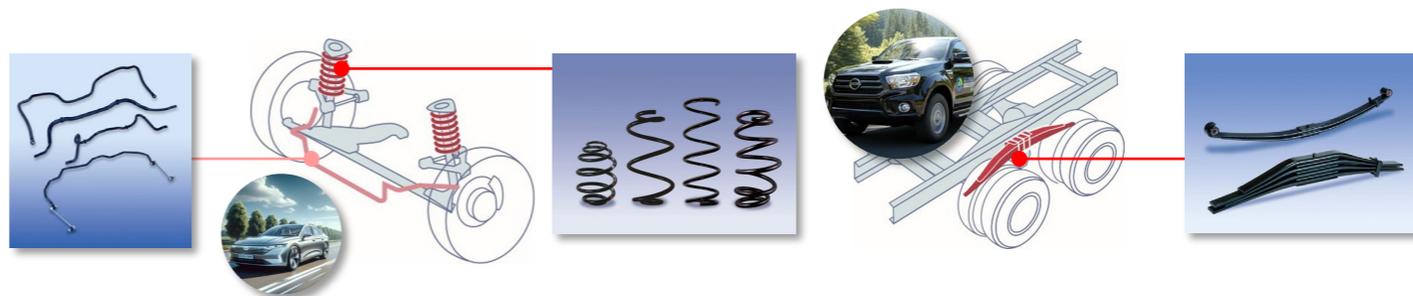
ばね事業
38.7%

「ばね」とは？

力を加えると変形し元に戻ろうとする性質を使って、「衝撃や振動を和らげる」「荷重を支える」等の機能を担う部品

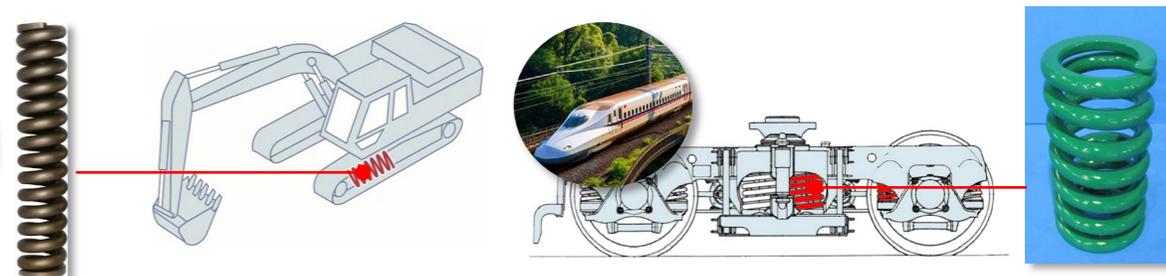
当社の「ばね」の主な用途

- ✓ 自動車用のばねが大半。
- ✓ 自動車の足回りに組み込まれ、路面からの衝撃や振動を吸収し、乗り心地を支える。
- ✓ 重要保安部品に該当し、安全性を支える高い耐久性と品質を誇る。



- ✓ 太い径のばねを得意とし、建設機械や鉄道車両等にも使われている。

建機向け
太巻きばね
世界シェア
No.1



- ✓ ばねの技術を応用し、電子機器等に使用される高機能ヒンジも生産(P.21)



当社が扱う「ばね」

- ✓ 「巻ばね」は大型なものから精密ばねまで
- ✓ 「スタビライザ」や「板ばね」等も手掛ける



自動車用巻ばね

建設機械用太巻きばね

精密ばね



スタビライザ



板ばね



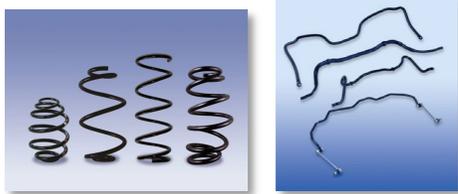
生産拠点

国内：千葉製作所（千葉県市原市）

海外：MSSC CANADA INC. (カナダ)、MSSC US INC. (米国)、
MSSC MFG MEXICANA, S.A. DE C.V. (メキシコ)、寧波菱鋼彈簧有限公司 (中国)、
MSM SPRING INDIA PVT. LTD. (インド)、MSM Philippines Mfg. Inc. (フィリピン)

主な製品

自動車用ばね・スタビライザ
約6割



戦略事業

商用車用板ばね
約2割



部品事業 約0.5割
(トラックや建設機械用の
補修部品・用品等)



産業車両・建設車両用
タイヤチェーン

太巻ばね
(建設機械・鉄道車両)
約0.5割

戦略事業



戦略事業 精密ばね部品 約1割



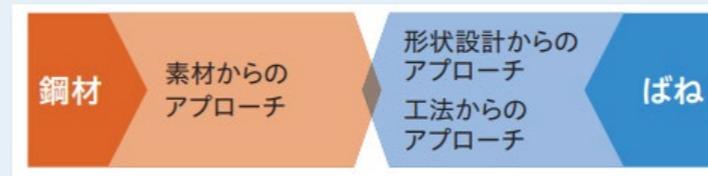
ポイント

◆ 1904年創業の日本最古のばねメーカー(東京スプリング製作所)をルーツとして、**長年モビリティの発展に貢献。**

◆ 主要需要先である自動車業界は、**電動化(EV・PHEV等)という大きな変革期**

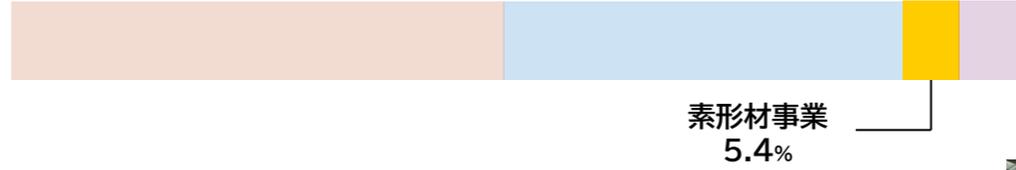


- ✓ 「ばね」を含む**自動車足回りの構造は大きな変更が想定されていない。**
- ✓ バッテリー搭載による車体の重量増等により、ばねの**さらなる軽量化等が求められる。**



「素材」と「加工」の両面で、**独自のばね軽量化技術**を發揮

素形材事業



生産拠点

国内：広田製作所（福島県会津若松市）
海外：MSM (THAILAND) CO.,LTD.(タイ)



広田製作所

主な製品

戦略事業

特殊合金粉末
約3割



精密鋳造品
約3割



ターボチャージャー用
タービンホイール



ターボチャージャー用
ベーン

サーキュラーエコノミー
に貢献

シュレッターハンマー



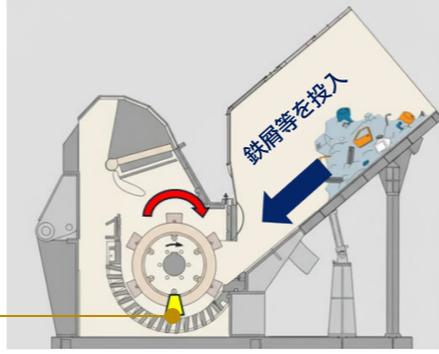
鋳鋼品 約1割

特殊材料・加工品
約2割

精密機械加工品
(自動車・電子機器向け等)
約1割



カメラ用部品



鉄屑等を投入

ポイント

◆ 素形材事業の特長

- ✓ 溶かした金属を、
 - 型に流し込んで成形する「**鋳鋼・鋳造品(鋳物)**」
 - 合金元素を独自の配合で加え微細な粉末状に加工する「**金属粉末**」等を主要製品とする。

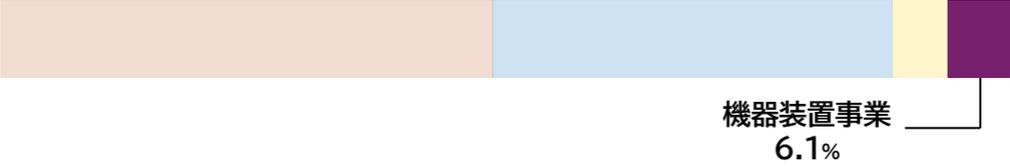
✓ 自動車や電子機器・産業機器・農機等、幅広い分野に製品を提供。



精密鋳造品の生産工程

◆ 自動車内燃機関向け中心の製品ポートフォリオからの脱却を図る

- ✓ 従来は、ターボチャージャー用のタービンホイールやベーンといった、自動車内燃機関向け部品が事業の中心。
- ✓ 自動車の電動化により将来的な需要減が想定されることから、市場の拡大が見込まれる**特殊合金粉末**を戦略事業に掲げて育成(P.23)。



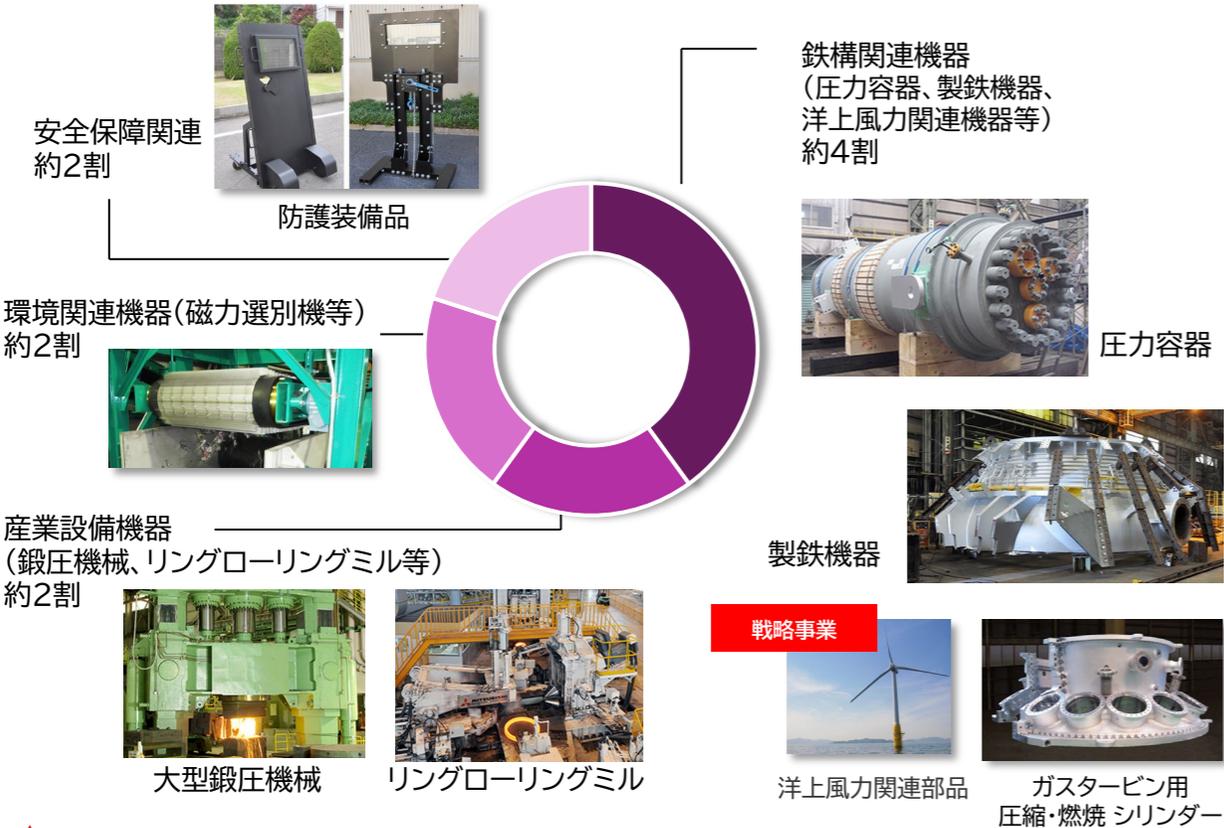
生産拠点

国内：三菱長崎機工(株)
(長崎県長崎市・諫早市)



大型製品の加工・輸送に適した
海に面した広い敷地に工場を構える

主な製品



ポイント

◆ 機械設計から製造、据付・組立工事まで一貫したサービスを提供する
総合エンジニアリング事業

◆ 向け先は多岐に渡り、**今後成長が期待される分野**も多い。

- ✓ AIの普及やデジタル化の進展に伴う電力需要増で注目される **エネルギー分野** (ガスタービン、洋上風力関連等)
- ✓ 国の防衛予算増額を背景に受注が好調な、**安全保障分野**
- ✓ サーキュラーエコノミーや、リチウムイオン電池混入時の発火・火災事故のリスク低減に貢献する金属分別用リサイクル設備 (磁力選別機)

◆ **業界屈指の大型加工技術**を保有



世界最大級の大型機械
鍛造プレス・マニプレーター



世界最大重量の
浚渫作業用バケット



製品大型化が進む
洋上風力発電分野

Ⅲ. 2030年に向けた 成長ストーリー

戦略事業で攻めの経営、持続的成長の実現

基盤事業の“稼ぐ力”の強化と戦略事業の“育成”の推進で
企業価値の向上と持続的成長を実現

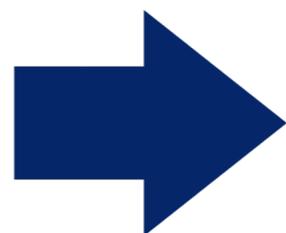
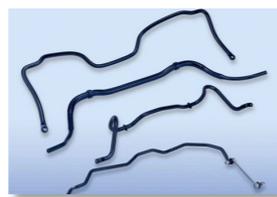
基盤事業



国内鋼材



自動車ばね・
スタビライザ



戦略事業



特殊合金粉末



洋上風力関連



海外鋼材



商用車用板ばね



精密ばね部品



イントラプレナー
育成

新規事業

稼ぐ力を強化してキャッシュを創出

稼いだキャッシュを成長が期待できる戦略事業に積極投資

ありたい姿に向けた現在地

2023中期経営計画

2023年5月

- ✓ 2030年のありたい姿を策定・公表
- ✓ バックキャストする形で「2023中期経営計画」を策定

2023中期経営計画

2030年のありたい姿への通過点として、
“利益拡大・財務強化と、次なる飛躍への助走”を同時に行う

基本方針① 稼ぐ力の強化

基本方針③ 人材への投資

基本方針② 戦略事業の育成

基本方針④ サステナビリティ経営

成果と進捗

(詳細次ページ以降)

- ✓ **戦略事業の育成は順調に進捗**し、一部事業は既に収益に貢献。その他の事業も設備投資等を着実に実行。
- ✓ ROIC経営を導入し、資本効率の向上に向けた取り組みを加速。
- ✓ 一方で基盤事業の不安定さに課題が残り、最終年度の利益目標は未達の見通し。

次期中期経営計画

2026年2月 (本日時点)

次期中計を通した当社の成長戦略を社内で策定中。

2026年5月

次期中期経営計画 公表予定

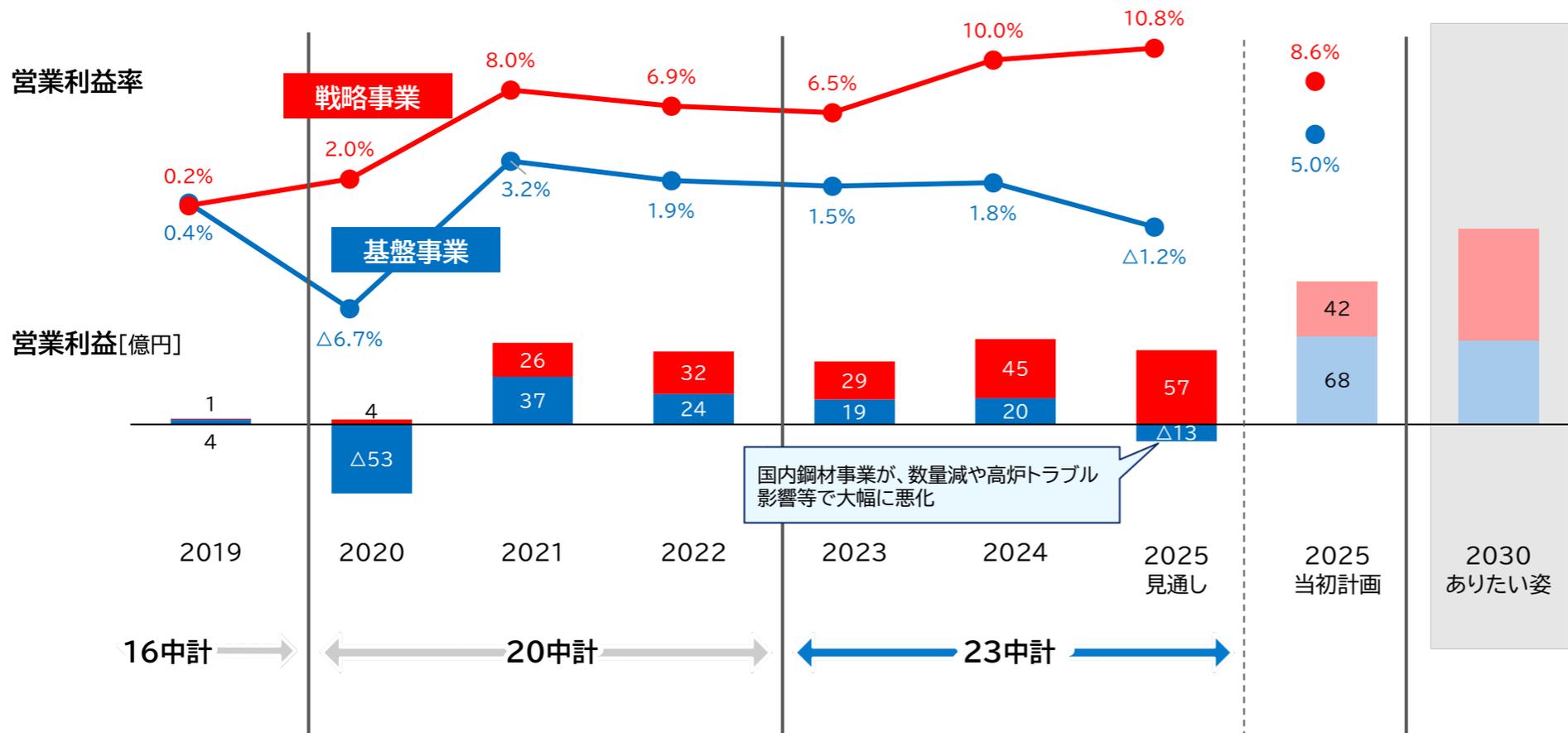
2030年ありたい姿
の実現と
持続的な成長

- ✓ 「基盤事業でキャッシュを創出し、市場成長が期待できる戦略事業を育成する」という大きな方針は変更しない。
 - ✓ 足元の動向も踏まえ、「**当社の強みを生かして、より顧客価値を創出できる分野はどこか?**」今後の市場動向も踏まえながら、当社がより注力すべき事業を見極める。
- ▼
- ✓ 当社の2030年のありたい姿に向けた成長への具体的な道筋を、次期中計で示していく。

今中計の成果と課題

Ⅲ. 2030年に向けた成長ストーリー

営業利益・営業利益率の推移（戦略事業／基盤事業）



戦略事業

利益率の高い戦略事業は順調に伸長し計画を上回る見通し。
(精密ばね部品、海外鋼材等)

基盤事業

自動車ばね事業の構造改革を進めるも特に景況感依存の高い国内鋼材の影響で大幅未達。
全体でも中計未達の要因に。

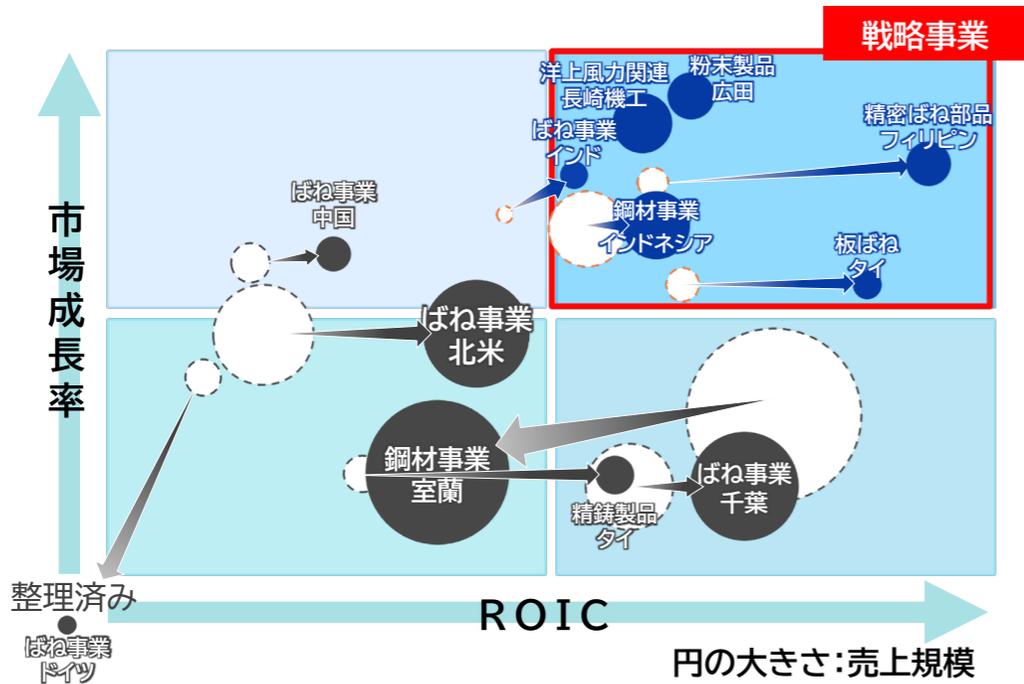
基盤事業の変動による業績ボラティリティの高さが課題

戦略事業の比率をさらに上げ、ボラティリティの高い基盤事業への依存を減らし、安定的な利益成長を図る

ROICの導入

資本効率の向上に向け、今中計期間よりROIC(*)を導入し、経営判断の材料として活用。

事業ポートフォリオマップ (今中計2年半の変化)

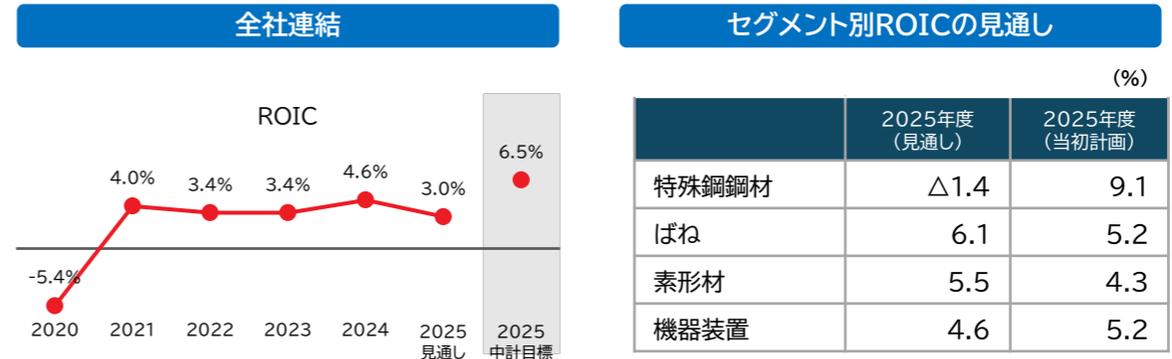


ROICと市場成長率の観点から
拠点別の事業ポートフォリオマップを作成し分析

*ROIC:事業に投入した資本がどれだけの利益を生み出しているかを表す指標。
ROIC経営により長期的に企業価値を向上させ続けることを目指す。
(算出式) ROIC(投下資本利益率) = 営業利益(税引後) ÷ 投下資本

- ✓ 両指標ともに高い拠点には積極的に資源を配分。
- ✓ 一方で、低採算の事業は生産体制の見直しや製品ポートフォリオのスリム化、時には撤退・売却も視野に、抜本的な対策を講じる。

ROICの推移



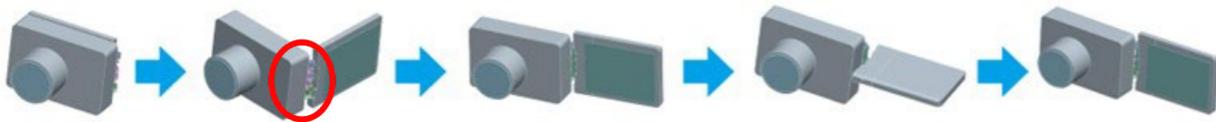
- ✓ 国内鋼材事業の悪化により、全社ROICは目標未達の見込み。
- ✓ 一方で他の事業は目標並み又は目標を上回る見通し。

精密ばね部品



主な用途

- デジタルカメラやパソコン等の液晶部分の可動域に使用



※複数方向への可動等、複雑な動きの実現に強み

- 2000年代ごろには、折り畳み式携帯電話用の2軸ヒンジに採用され、国内シェア1位を誇った。
- 高機能ヒンジで、今後さらなる用途拡大を図っていく

情報端末

車載端末

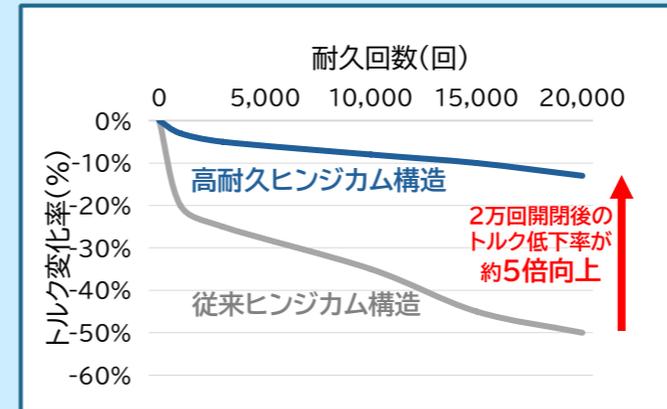
ウェアラブル商品

福祉・介護

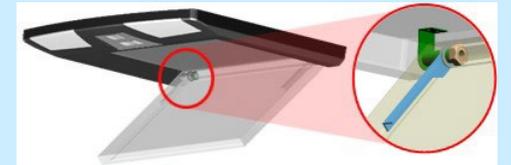
等々...

当社の強み・特長

- 部品の設計段階から組み立てまでの一貫生産でお客様のニーズに柔軟に対応。
- 高トルクと高耐久性を実現した特殊カム構成で**特許を取得**。



耐久性が向上し、長期間にわたって滑らかな動きを実現



自動車の振動がある状況下でも、車載ディスプレイの角度を保持できる特殊カム構成を使用したヒンジの開発等

事業育成の進捗

- 2024年度期中より、**大型案件の量産が開始**して、**収益に大きく貢献**。(2024年度売上高:69億円)
- さらなる生産能力の増強に向け、設備投資を実施中。

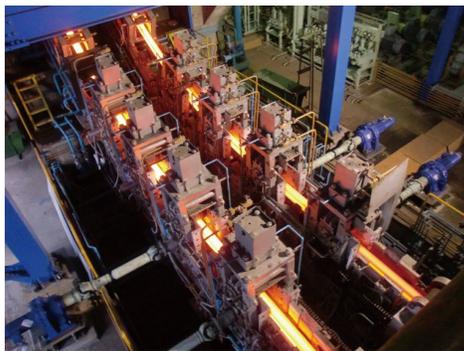
スマート端末用ヒンジ生産・組立能力増強(全4ステップ)

売上増: 30億円/年

投資額: 8億円

完了時期: 2025年度内 ステップ4まで完了

海外鋼材



事業概要

- ▶ 国内拠点(室蘭)に加え、海外拠点としてインドネシア子会社で特殊鋼を生産。

PT. JATIM TAMAN STEEL MFG.

プラント1:東ジャワ州シドアルジョ市

プラント2:東ジャワ州グレシック市



東南アジア唯一の製鋼一貫特殊鋼メーカー

設立の経緯

- ▶ ASEANの成長市場を捕捉すべく、2014年に現地鋼材メーカーに資本参加。
- ▶ 2018年に同社の株式を追加取得して連結子会社化。
- ▶ 参画当初は、苦戦していたが、2021年より営業黒字化。

事業育成の進捗

- ▶ コスト改善の取り組みの成果もあり、順調に収益に貢献。
- ▶ さらなる生産能力拡大に向け丸鋼の生産能力増強に着手。

丸鋼精整ライン増強(全4ステップ)

投資額：1億円 完了時期：2025年2月ステップ1まで完了

※ステップ2以降はインドネシアおよびASEAN地域の鋼材需要に応じて実施予定

脱炭素ニーズへの対応

- ▶ 昨年10月より非化石証書を取得し、使用電力の100%を再生可能エネルギー由来に切り替え。
- ▶ JATIM社単体で約80%のCO₂削減。
(当社グループ海外全体では50%、連結全体でも25%の排出量削減(Scope1・2)に相当)

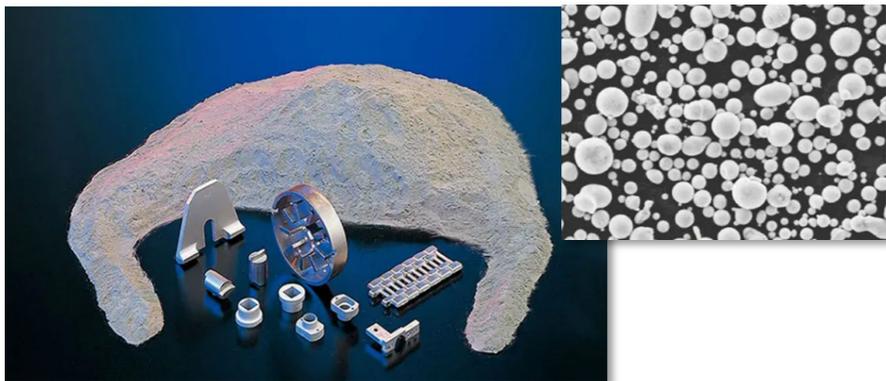
「グリーン鋼材」の供給に向けた大きな前進となる

- ▶ 昨年12月には、インドネシアの「**グリーンインダストリー認証**(*)」も取得。
同認証の特殊鋼分野での取得は**インドネシア初**となる。

*グリーンインダストリー認証

:インドネシア工業省が運営する政府公式認証制度で、資源やエネルギーの効率的な利用により環境負荷を最小限に抑え、持続可能な生産を行う産業を対象としている。

特殊合金粉末



特殊合金粉末とは？

- 溶かした金属にさまざまな合金元素を独自の配合で加え、微細な粉末状に加工した製品。
- 配合により、「耐熱性」「耐腐食性」「磁気特性」等、お客さまのニーズに応じた特性を付加することが可能となる。
- お客さまに納入後、粉末冶金や3Dプリンタ等で製品に加工される。

主な用途

- 自動車部品や電子機器をはじめ、航空、宇宙、防衛関連等の成長分野など、さまざまな製品に使用される。
- 特に、3Dプリンタ向けや、スマートフォン・自動車などの通信・制御機器に使用されるインダクタ向けは、今後の市場成長が大きく期待される。



事業育成の進捗

- 広田工場の能力増強投資を実施中で、今年度中に第1ステップが完了予定。
- 今後はお客様の承認を経たうえで、来年度半ば頃からの本格稼働を想定。

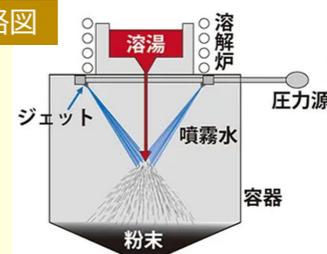
水アトマイズ(*)ライン生産能力増強(全3ステップ)

生産能力：現行比5割増を計画 投資額：7億円
完了時期：2026年3月ステップ1完了予定

(水アトマイズとは?)

特殊合金粉末の製法の一つで、溶かした金属を高圧の水 flow で細かく噴き飛ばし、急速に冷却して微細な粉末を作る製造方法。

製法概略図



脱炭素ニーズへの対応

- 特殊合金粉末を製造している広田製作所は、2023年に全ての電力のCO₂フリー化が完了。これにより広田製作所におけるGHG排出量は従来比9割の削減を実現。

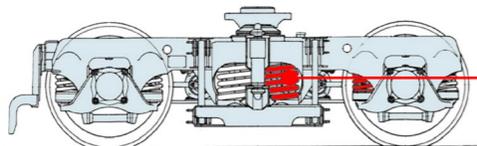
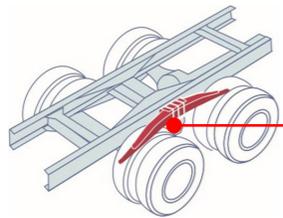
➡ お客さまの脱炭素化ニーズにも応えていく。

商用車・車両用ばね



事業の概要

- 基盤事業の自動車向けに加え、商用車・鉄道向けのばね需要にも対応。
- 足回り部分に組み込まれ、地面からの衝撃や振動を吸収し、乗り心地向上に貢献する。



事業育成の進捗

- 特に新興国では人口増や都市化の進展で今後の市場の伸びが期待される。
- 新興国市場での需要捕捉に向けて設備投資を推進。

板ばね研究設備新設

投資額：2億円

完了時期：完了済

当社の特長・強み



特殊鋼鋼材事業 JATIM社
板ばねの材料となる平鋼を生産



インドネシアの
現地協力会社で
板ばねに加工



板ばねとして
お客さまに販売

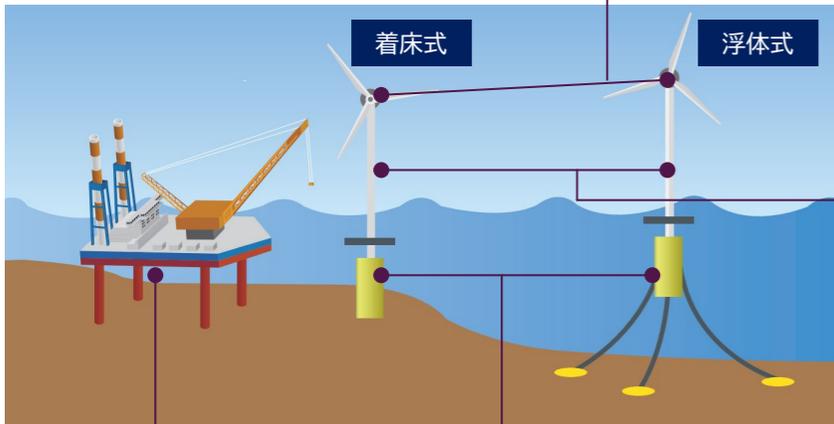
素材からの一貫生産モデル

- 「素材」と「加工」の技術を持つ当社ならではのアプローチで、軽量化ニーズに対応。
- JATIM社は昨年10月に、使用電力の100%再生可能エネルギー化を果たしており、同社の鋼材を一貫生産で加工する世界初の「グリーン板ばね」の商品化に向けた検討も進める。

洋上風力発電関連



当社の供給する主な製品例



ナセル架台



写真提供:
ハマックス株式会社
タワー用フランジボルト
向け鋼材



洋上風車建設時に使用する
自己昇降式作業台船
(SEP船)昇降装置



風車を支える基礎部位

長崎県五島市沖の浮体式洋上風力
(本年1月より稼働開始)に、
当社グループの部材が採用
(風車を支える直径約8mの基礎部材)

洋上風力発電市場の展望

- 近年急速に拡大するAIの普及やデジタル化の進展に伴う電力需要の拡大と脱炭素社会の実現に向け、**風力発電の割合は増加**が見込まれる。

再生可能エネルギー 需要割合の見通し

※経済産業省開示資料
より当社作成

		2023年度(速報値)	2040年度(見通し)
発電電力量		9,854億kWh	1.1~1.2兆kWh程度
電源 構成	火力	68.6%	30~40%
	原子力	8.5%	20%
	再エネ	22.9%	40~50%
	うち風力	1.1%	4~ 最大8%

- より多くの電力供給を可能とするために設備の大型化が進む一方で、製品の大型化ニーズに対応できる国内のサプライヤーは一部に限られる。

➡ **大型化に対応**できる当社の強みを生かして、国内外の需要を捕捉

事業育成の進捗

- 将来の需要増に向け、大型化に対応できる当社グループの強みをさらに増強中。

洋上風力発電用部材加工 大型バンディングロール新設

最大加工板厚 130mm 直径20mの基礎部材の加工を想定
稼働時期：既に導入は完了し、本格稼働に向けた体制整備中



- さらに、洋上風力や防衛関連需要の増加に対応すべく新工場の建設を決定
(詳細次ページ)

三菱長崎機工(株) 新工場建設

- ◆ 機器装置事業を担う三菱長崎機工(株)において、新工場建設を決定。(国内では1994年以来の新工場建設)
- ◆ 高い熱処理技術を強みとする防弾鋼板(防衛関連製品)の受注増に加え、大型部材に対応可能な国内有数の生産体制を強化することで、将来的な洋上風力発電分野の需要増に対応。

新工場建設の背景

- ◆ 国の防衛予算増額を背景に、防弾鋼板とその応用品の受注が好調。
- ◆ 国内外における電力需要増に伴い、ガスタービン用ケーシングなど発電所向け製品の受注が大幅に拡大。また再生可能エネルギー分野では、将来的に浮体式洋上風力発電の市場拡大が見込まれる。

安全保障分野と次世代のエネルギー需要に応えるべく新工場建設を決定

新工場建設の概要

【三菱長崎機工 神ノ島工場(仮称)】

- ◆ 建設予定地:長崎市神ノ島工業団地内
- ◆ 総投資額 : 約46億円(第1期:約30億円)
- ◆ 稼働時期 : 2027年1月 ※第1期(予定)
- ◆ 生產品目 : エネルギー関連製品、防衛関連製品等



建設予定地

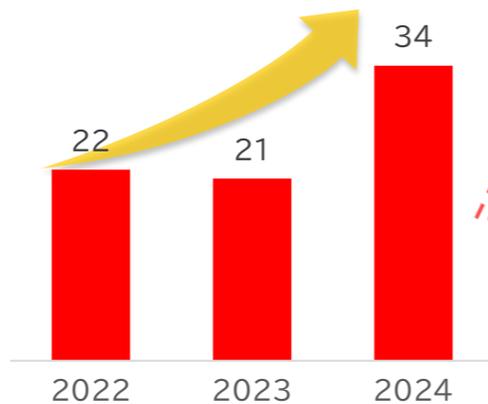


研究開発について



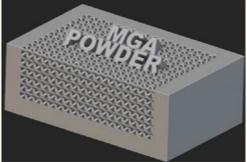
- ◆ 各事業部に分散していた研究開発機能を集約し、技術開発を促進させる目的で、技術開発センターを設立(2016年)。
- ◆ 人員:60名(2025年3月末現在)
- ◆ お客様のニーズを引き出す“顧客提案型”の開発を推進。

戦略事業に関する試験研究テーマ数

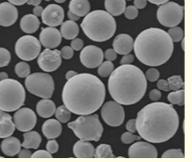


「素材」×「加工」の技術をコアに成長分野である戦略事業の試験研究を強化。

戦略事業 素材から製品へ(用途開発)



3Dプリンタ製品



素材粉末

✓ 需要が高まる**3Dプリンタ向け粉末**の用途拡大に向けユーザー(製品)目線で開発(自動車・航空・宇宙 等々…)

戦略事業 海外鋼材の高清浄度化

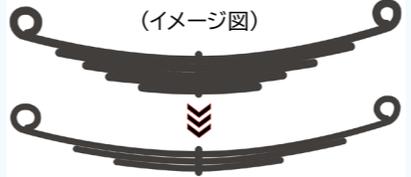




介在物の評価技術を向上

✓ 海外でも不純物の少ない高品質な鋼材の安定生産に向け、**26年度中の技術確立**を目指す

戦略事業 ばねの軽量化技術



(イメージ図)

品質維持しつつ
板枚数減で
軽量化を実現

✓ 「素材」×「加工」の技術で**材料の高強度化**を実現し、**業界屈指の軽量化**を実現

新規事業 副産物を活用した新規事業



磯焼けした海



スラグ

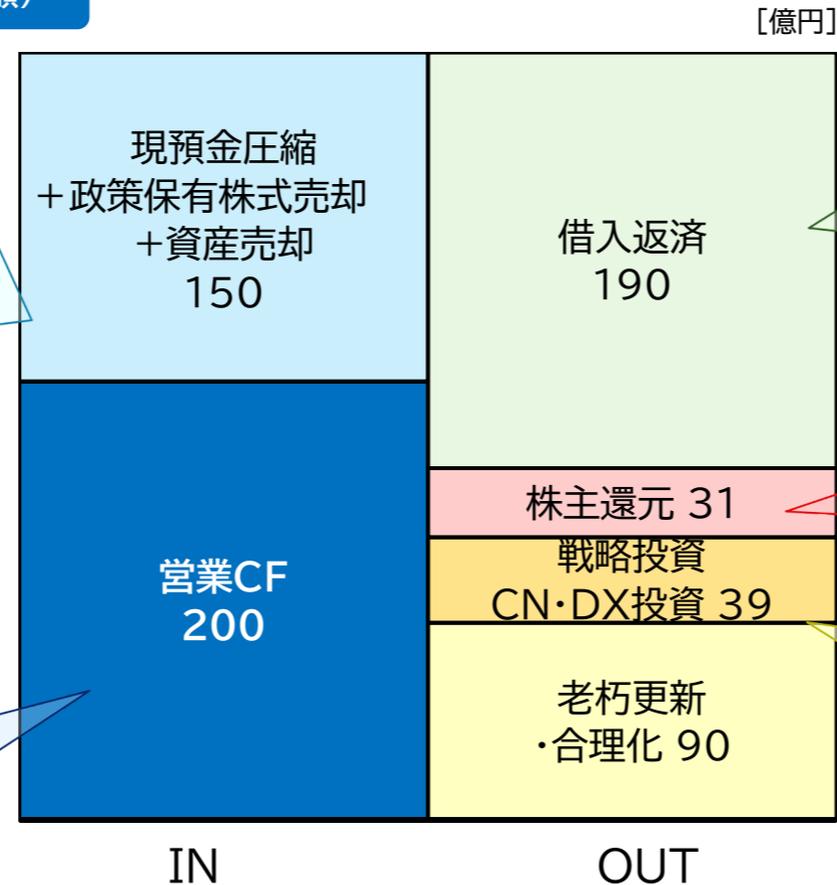


豊かな海

✓ 鉄鋼生産で発生する製鋼スラグを活用し、**海の藻場の再生**に貢献

キャッシュ・アロケーション (創出した資金の使い道)

現中計期間におけるキャッシュ・フロー計画(累計額)



- ✓ 遊休資産や政策保有株式の売却を実施
- ✓ さらに、CCC改善(*)等による運転資金の削減を進める

キャッシュを創出

【CCCとは？(キャッシュ・コンバージョン・サイクル)】

「仕入→製造→販売→回収」のサイクルにおいて、企業がどれだけ効率よく資金を回しているかを示す指標。管理・改善することで、無駄な在庫や売掛金を減らし、手元資金の増加を図る。

- ✓ 中期計画の利益目標未達により、営業CFは当初の想定に比べ減少の見込み。

- ✓ 2019~20年度の2期連続赤字で自己資本比率が低下。
- ✓ 金利上昇局面で金融収支の改善も課題。

借入の削減を進め、自己資本比率の回復を進める。(当面の目安は35%)

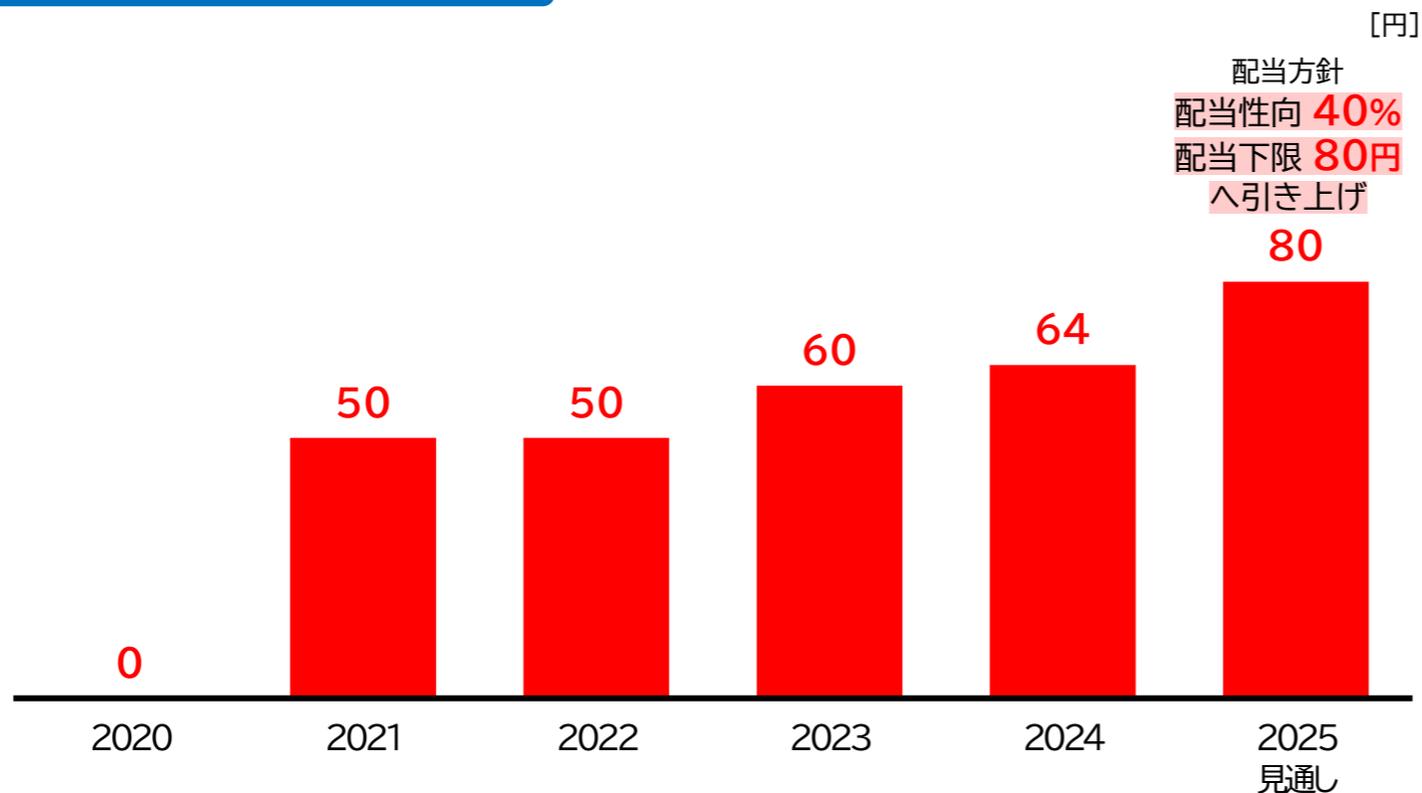
- ✓ 利益成長による営業CF拡大と自己資本の回復により、健全な財務基盤を維持したまま株主還元を段階的に拡充。(詳細次ページ)

- ✓ 必要な老朽更新・合理化投資を進めつつ、戦略投資は積極的に実施。
- ✓ 一方で、投資実行のタイミングは市場環境や事業の成長性を冷静に見極めて判断。

次期中計期間においても、**資本効率**を意識しながら、

成長投資と**財務体質改善**、**株主還元強化**の**バランス**を重視して適切に配分

1株当たり配当金と配当性向の推移



配当性向	—	19%	35%	—	41%	48%
当期純利益	△55億	41億	22億	△10億	24億	25億

- ✓ 株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つと考え、株主還元の段階的な強化を推進。
- ✓ 2025年5月に従来の配当方針を引き上げ（対象は2025年度）



安定性と成長性の両立を重視

- ✓ 次年度以降の方針は、5月公表予定の次期中計の中で公表予定。

株価の推移



株主総利回り等

年	株価(円)*	配当(円)	配当利回り	株主総利回り(%)*	
				当社	配当込TOPIX
2021/3	875	0	—	101.3	128.6
2022/3	1,135	50	4.4%	148.9	131.2
2023/3	1,170	50	4.3%	159.6	138.8
2024/3	1,476	60	4.1%	205.5	196.2
2025/3	1,632	64	3.9%	233.2	213.4
2026/3*3	1,877	80	4.3%	274.0	277.3

※1 株価は年度末の終値です。

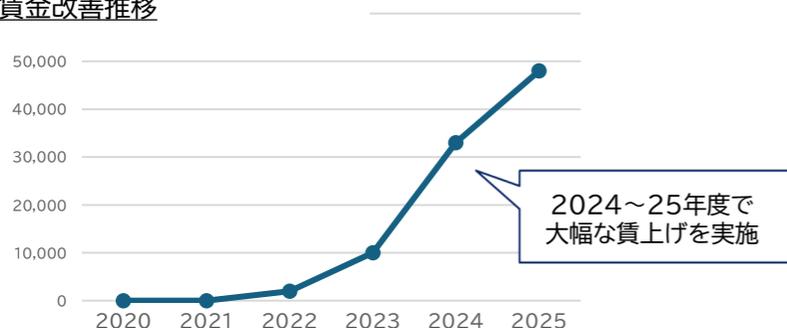
※2 株主総利回りは、「(各期末日の株価+1株当たり配当累計額)÷2020/3期末日の株価」で算出しています。

※3 2026/3期の株価は、2025/12月末時点の株価を基準に算出しています。

人材への投資を強化

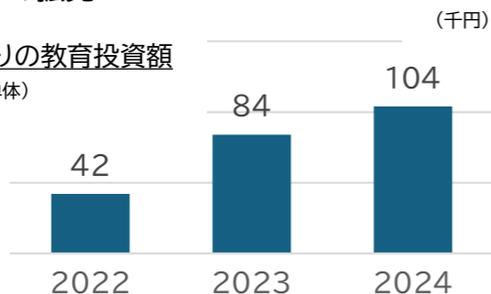
◆ 過去最高水準の賃金改善

2020年を基準としたときの賃金改善推移



◆ 教育・研修の拡充

1人当たりの教育投資額の推移(単体)

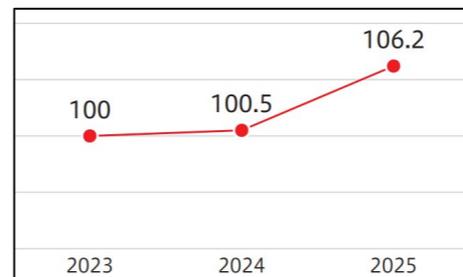


従業員満足度の可視化と改善

- ◆ 2023年度より、従業員満足度を可視化する「エンゲージメントサーベイ」を実施
- ◆ 明らかになった課題の対策を進めることでスコアは着実に改善傾向

エンゲージメントサーベイ 総合スコア推移

(初回調査(2023年度)を100として換算)



- ◆ 経営陣が従業員の生の声を聴く「タウンホールミーティング」も定期的開催



女性活躍

管理職候補者層の女性比率が向上



女性活躍推進に向け教育・制度面等の取り組みを強化

社会的評価の獲得



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

健康経営優良法人
(大規模法人部門)



プラチナくるみん
子育てをサポートしています

「一人ひとりが最大限のパフォーマンスを発揮し、ともに成長できる強い組織」を目指す

サステナビリティ経営の推進

カーボンニュートラルに向けた取り組み

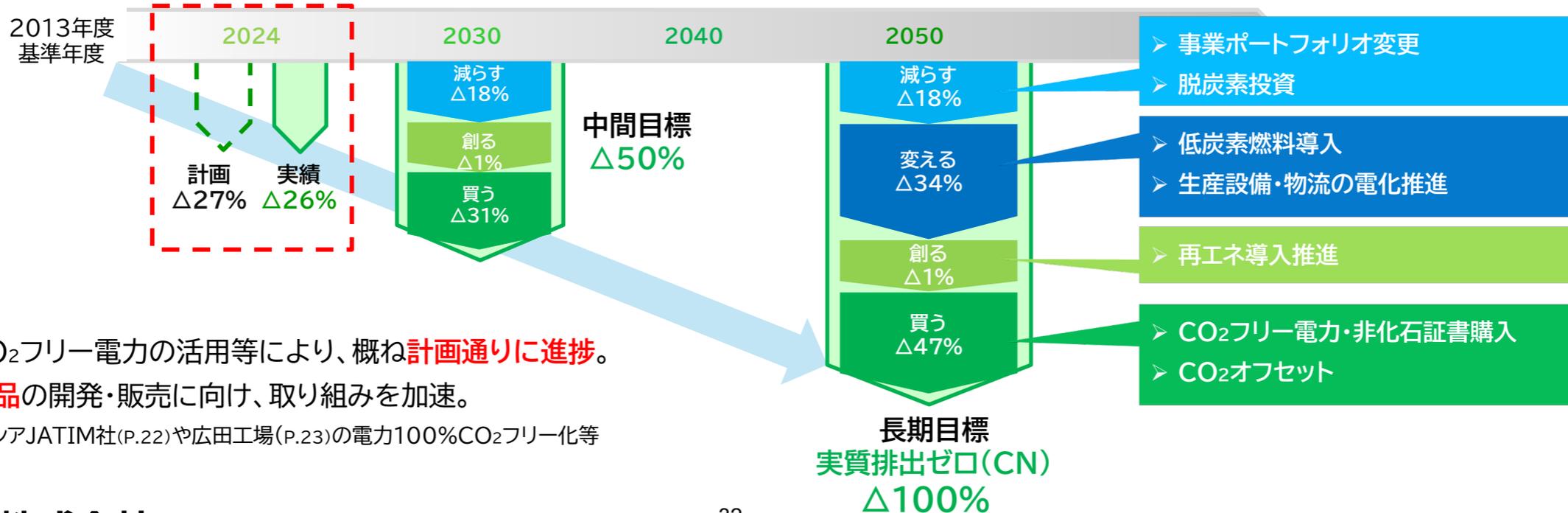
2030年 **排出量削減50%** (2013年度比)

&

※2024年に、政府の2030年目標(46%)を上回る水準まで引き上げ。

2050年 **カーボンニュートラル**

GHG排出量削減目標 (国内Scope1,2)



- ✓ 足元は、CO₂フリー電力の活用等により、概ね**計画通りに進捗**。
- ✓ **グリーン製品**の開発・販売に向け、取り組みを加速。

※インドネシアJATIM社(P.22)や広田工場(P.23)の電力100%CO₂フリー化等

外部評価・認証

CDP
Discloser
2025

CDP(*)評価の向上
「気候変動」分野で「A-」(昨年はB)
「水セキュリティ」分野で「B」(昨年はC)

GHG排出量は第三者認証
で透明性を確保

*CDP: 企業や自治体を対象として、環境関連の戦略や取り組みを8段階(A、A⁻、B、B⁻、C、C⁻、D、D⁻)で評価・情報開示する国際的な非営利団体

地域・社会貢献活動

企業版ふるさと納税による寄付



(北海道室蘭市、福島県会津若松市、
千葉県市原市、長崎県長崎市)

地域貢献・交流活動



近隣地域のお祭り・イベント等への参加

三菱製鋼長崎製鋼所
原爆殉職者慰霊祭



近隣の学校の
工場見学受け入れ

工場近隣地域の清掃活動

当社拠点地域に縁のある チームや選手への支援



三菱長崎機工(株)が
長崎ヴェルカと
V・ファーレン長崎の
公式パートナーに



フィリピンと日本にルーツを持つ
ジュニアアスリート
(鈴木新一選手)と
スポンサー契約を締結

パラスポーツ支援



(一社)日本車いすバスケットボール連盟と
オフィシャルサポーター契約を締結



体験会・講演会や試合観戦等の社内イベントの開催をとおして、
ダイバーシティの理解度向上や社員の一体感醸成・満足度向上を図る。

海外拠点の取り組み



孤児院への寄付・訪問
(タイ)



社員有志による慈善団体への寄付
(カナダ)



マングローブの森を守る植林活動
(フィリピン)

企業価値向上に向けて

PBRの推移



- ✓ 依然としてPBR1倍未満の状況が継続
- ✓ 今年は新TOPIX基準充足の判定が控えており、企業価値向上は、重大な経営課題

PBRの改善に向けて

企業価値向上
(PBR \geq 1 \rightarrow)

ROE
向上

PER
向上

≡資本コスト
引き下げ

【重点課題】事業ポートフォリオの最適化

収益力の向上

- 基盤事業の稼ぐ力の強化
- 収益率の高い戦略事業の育成

資本効率の最適化

- 低採算事業の構造改革
- CCC改善活動

業績ボラティリティ低減

- 国内鋼材に依存しない収益構造への転換

成長期待の向上

- 戦略事業の説得力のある成長ストーリーと着実な進捗

ステークホルダーとの
情報格差縮小

- 情報開示の強化と株主・投資家との対話促進

非財務価値向上

- ESGの取り組み推進

本日ご説明した成長戦略を着実に進め、結果を出していくことで、投資家の皆様の期待と信頼獲得を図る。

その具体的な道筋を、5月に公表予定の新中期経営計画で示していく。

IV. ご参考資料

IRコミュニケーションツール

当社ウェブサイト「株主・投資家情報」



個人投資家の皆様へ



シエアドリサーチ社による
企業分析レポート

URL: <https://www.mitsubishisteel.co.jp/ir/>

統合報告書



価値創造プロセス



トップメッセージ



社外取締役×機関投資家鼎談

URL: <https://www.mitsubishisteel.co.jp/sustainability/download/>

決算説明資料



決算説明会動画配信



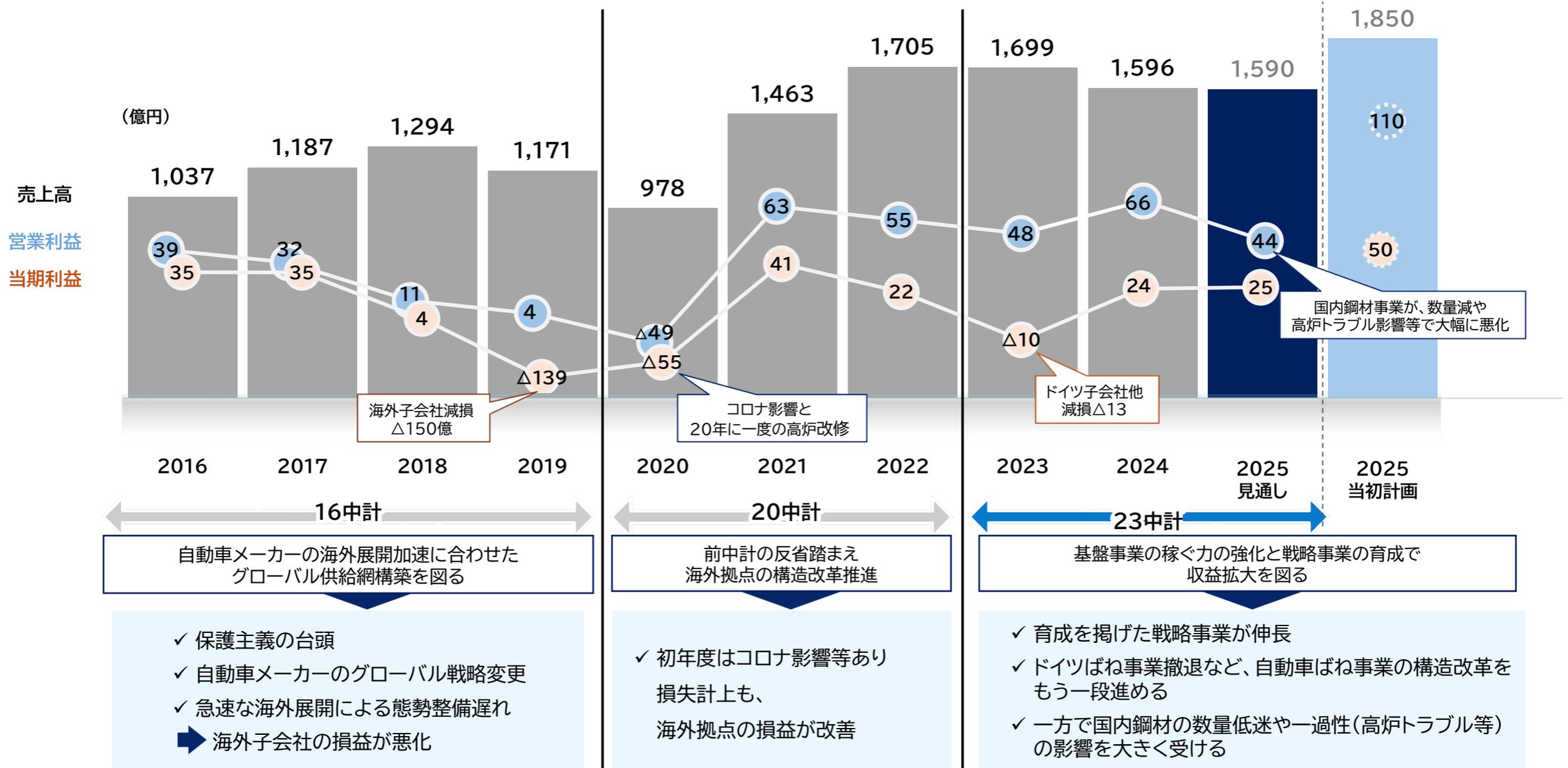
決算説明会書き起こし記事
(ログミーファイナンス)

URL: <https://www.mitsubishisteel.co.jp/ir/library/presentation/>

業績・財務指標の推移

		2020	2021	2022	2023	2024	2025 見通し	
収益性	売上高	(億円)	978	1,463	1,705	1,699	1,596	1,590
	営業利益	(億円)	△49	63	55	48	66	44
	営業利益率	(%)	△5.1%	4.3%	3.3%	2.8%	4.1%	2.8%
	当期純利益	(億円)	△55	41	22	△10	24	25
	営業CF	(億円)	38	△19	△28	65	60	75
資本効率性	ROIC	(%)	△5.4%	4.0%	3.4%	3.4%	4.6%	3.0%
	ROE	(%)	△13.5%	9.9%	5.1%	△2.3%	5.6%	5.8%
財務健全性	自己資本比率	(%)	30%	30%	28%	28%	31%	33%
	ネットD/Eレシオ	(倍)	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.7
株主還元	EPS	(円)	△359.4	264.8	142.6	△63.5	155.9	165.3
	配当総額	(億円)	0	8	8	9	10	12
	1株当たり配当	(円)	0	50	50	60	64	80
	配当性向	(%)	—	19%	35%	—	41%	48%

業績の推移と中計の変遷





<将来見通しに関する注意事項>

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。